



【沢コレクション解題】御霊社内文楽座絵番付（
明治一八年四月） 新京極パテー館活動写真チラシ
（大正三年一月）
松竹座（岐阜）芝居番付（①・②・③）

メタデータ	言語: ja 出版者: 奥野 久美子 公開日: 2024-01-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 久堀, 裕朗 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/0002000257

【吉沢コレクション】 解題

御霊社内文楽座絵番付 (明治一八年四月)

江戸時代、稲荷社内（現、難波神社境内）にあった文楽の芝居は、明治五年（一八七二）に松島遊廓内の松島芝居に移り、座名を「文楽座」としたが、さらに明治一七年（一八八四）九月には御霊神社（現、大阪市中央区淡路町）の境内に移って、御霊文楽座が開場した。この形式の絵番付はその開場を機に発行されるようになったものである。木谷蓬吟著『五世弥太夫 芸の六十年』（非売品、一九三四年）にも、御霊文楽座の開場に当たって、「美本装釘の絵番附の発行」など「宣伝策戦怠りなく」なされたことが述べられている。上下二つ折りにし、さらに折りたたむと、順に上演演目が並ぶ形になっており、掲出の明治一八年（一八八五）四月興行の絵番付では、「大江山酒呑童子（原題『酒呑童子話』）」「加（伽）羅先代萩」「傾城反魂香」各段の挿絵が描かれ、それぞれの配役が記されている。一般に人形浄瑠璃の役割番付では、江戸時代から近代に至るまで、三味線弾きの名前がひとまとまりに記され、三味線弾きの配役を知ることができないのに対し、この形式の絵番付では、各段にそれぞれ太夫・三味線弾きの名が記されており、その点で興行資料として有益である。但し、この形式の絵番付の発行は長く続かなかつたようで、御霊文楽座時代の、ごく初期のものしか残っておらず、残存数も少ない。その点でも貴重であると言えよう。

（久堀裕朗）



京都市第四回統計書（大正元年一二月）に「七八・〇一」と記されている。

掲出のチラシには、「泰西／大活劇 火中の大争闘 上下式巻」「実写 桜島の大爆発 第一報」「新派／悲劇 もつれ縁 上中下／全十幕」と、三つの題目が見て取れる。年時については「当る一月二十日より」とあるだけで、年が記されていないが、このうち「桜島の大爆発」は、大正三年（一九一四）に起こった所謂「桜島の大正大噴火」であると思われ、そうするとその最初の噴火は一月二日に発生した出来事なので、その直後の「第一報」として上映されたものと推定することができる。当時の活動写真のメディアとしての性格や、その速報性がよくわかる資料であると言えよう。題目の左側に「当館が逸走^{マユ}も駆付け機敏に撮影したる実況の第一着」と記されている。

また最後の「新派／悲劇 もつれ縁」は「久保田清秋元菊弥一派出演」「囃シ鳴物台詞入り」と記されており、連鎖劇として上演された演目であろう。連鎖劇とは、芝居のなかに無声映画の場面を交互に採り入れ、連続して上演した演劇のことで、明治末にはじまり大正初期に流行した。京都での連鎖劇の人気のピークは大正四～六年であったという（富田美香・大矢敦子「KYOTO映像フェスタ「京都映画草創期」調査報告」『アート・リサーチ』vol.4、二〇〇四年三月）。「久保田清」「秋元菊弥」とともにこの時代に連鎖劇や活動写真で活躍した俳優で、両者の経歴は天野忠義著『花形活動俳優内証話』（杉本金成堂、一九一八年）に詳しく記されている。久保田については、「京都では何と云つても久保田を連鎖劇界の第一人と推さねばならぬ」とあるのが注目される。

（久堀裕朗）

【吉沢コレクション解題】

松竹座（岐阜）芝居番付 ①・②・③

吉沢コレクションには、主に講談・浪曲・映画など大衆芸能関係の一枚摺やチラシ、ポスターが多く収集されているが、そこには近代以降の地方の芝居番付も含まれている。その中から、松竹座（岐阜）の芝居番付を紹介する。岐阜県岐阜市白木町にあった松竹座は大正一二年（一九二三）六月に開場した劇場で、こけら落としは初代中村鴈治郎らによる歌舞伎公演であった（『岐阜市史 通史編 近代』）。『続々京まち歴史散歩 写真集』明治・大正・昭和（二〇年まで）』（京まちづくりの会、二〇一五年七月）には、開場の頃の劇場前の写真（岐阜県歴史博物館蔵）が掲載されている。

①・②はその開場年の番付で、①は大正一二年八月二三日より二六日、二代実川延若主演の歌舞伎『怪談乳房榎』の番付である。本作は早替り・本水などのケレンを見せ場とする延若の当たり役だが、その早替りの芸は、後に三代延若を経て、一八代中村勘三郎、当代中村勘九郎へと継承され、現在に至っている。

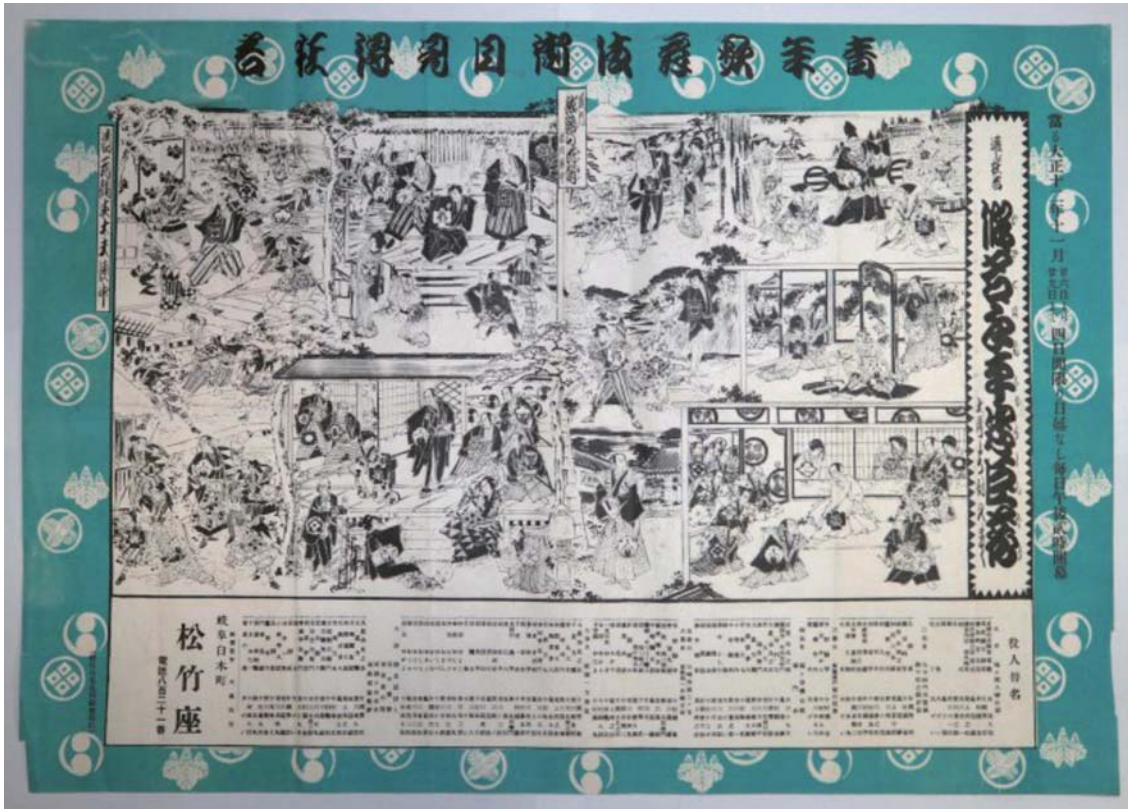
②は、同年一月二六日より二九日まで、中村扇雀（後の二代鴈治郎）、片岡秀郎らが出演する「青年歌舞伎御目見得狂言」の興行で、歌舞伎『仮名手本忠臣蔵』の通し上演である。扇雀は塩谷判官や早野勘平などを演じている。

③は、「大阪文楽座選抜若手人形大浄瑠璃」の番付で、文楽座若手による文楽地方巡業の際のもの。八月九・一〇日の記載のみ（掲載番組は初日の九日分）で年が記されていないが、一座の顔ぶれと演目が、昭和八年（一九三三）七月二二～二七日、神戸湊川松竹劇場「大阪文楽座人形浄瑠璃若手花形銷夏競演大会」（第一回）と一致し、その直後のものと推定される。この公演は現在刊行中の『義太夫年表 昭和篇』（和泉書院）にも収録されておらず、新出の番付である。

（久堀裕朗）



松竹座（岐阜）芝居番付①



松竹座（岐阜）芝居番付②



松竹座（岐阜）芝居番付③